



---

# 5、障がい者 雇用事業所の声

# 【 障がい者雇用事例の紹介 】

## ・基礎情報

〈事業所〉 マックスバリュ宮古西里店・農産コーナーに配属

〈支援対象者〉 Sさん：27歳・知的障害（B2）

事業所での業務内容：商品梱包・商品陳列

〈関わった方々〉 障害者授産施設、ハローワーク宮古、沖縄障害者職業センター

## ・就職までの経緯

### （１）準備支援（訓練など）

知的障害者通所授産施設での作業訓練、公園の除草作業（草刈機使用）・花壇植栽及び管理等を通して、仕事に対する安全性や責任感・モチベーションの維持、作業中の協調性などについて意識が持てるように支援を行ってきた。Sさんは体調や作業習得について問題はなく、ただ「一般企業への就労意欲」が薄く、「就職」ということに関心がなかったため、「なぜ就職することが必要なのか？」ということを生費や本人の意欲につながるようなテーマで、その意欲向上の支援を行ってきた。

そのSさんが、母の他界により、生活の事を実感し始め、「本人の就職したい」という希望が出てきた。そこから企業も視野に入れた就労支援を開始した。

### （２）実習の受入れについて

①ハローワーク宮古での求職相談：Sさんと就労支援員とでハローワーク宮古にて求職相談を行い、求人票から本人の希望に合う求人を探した。

②事業所〈現職場〉へ相談：沖縄障害者職業センターの職業カウンセラーが事業所へ同行し、店長へジョブコーチ支援事業の説明を行い、1ヶ月間の雇用前支援から始める事となる。店長は別店舗でも知的障害者を採用していた経緯もあり、受入れについてはスムーズであった。

### （３）雇用までに準備したこと及び定着にあたっての配慮

①本人の体調：特に体調については問題がなく良好。

②生活環境の整備：父親と相談。本人の食事面や日常生活の維持について管理していただくことを確認し、今後も父親と施設が、相談しながら本人の生活環境を支えていくことを確認し合った。

③本人の配慮点の整理：

・仕事に対して体調が悪くても無理に続けてしまい、体調を崩してしまうこと。

・環境に慣れるまでは、なかなか本人から相談ができないこと。

・作業指示等については殆ど他のパートの方と同じでも良いが、作業を見て理解できているかの確認をしていただくこと。

・本人の不注意や指導が必要な時にははっきりと注意、指導をしていただいた方が、本人の反省改善につながる。

以上のことなどの配慮点を整理しながら、事業所の店長やチーフ、他のパートの方にも書面や口頭でお伝えした。

④事業所が取り組んだこと：

・数多くある仕事を一つづつ教えたこと、具体的には初期の段階ではバナナの切り売りのみを本人に任せ、それに慣れてくるとみかんの袋詰め、さらに慣れてくると別の作業をなどと、作業に慣れる事を重視して指導を行うことで、Sさんが確実に一つづつの作業を覚えることができていた。

・休憩時間にもSさんに対して積極的に声をかけていただいたり、会社の慰労会などに積極的にSさんを誘ったりすることで、Sさんが職場の皆さんとの関係が、早い段階で構築できていた。

⑤制度活用：

・ジョブコーチ支援事業（現在の職場適応援助者助成金）の雇用前支援からスタートしフォローアップ期間の1年ヶ月の期間利用。

・トライアル雇用をジョブコーチ雇用前支援終了後からスタートし、3ヶ月間の試行的雇用期間があった。

・特定求職困難者雇用開発助成金をトライアル雇用終了後に採用が決定し、採用日から1年間助成金を受給があった。

## (5) 雇用後に出てきた課題及び対応した内容

課題点：①チーフの人事異動による不安。②退職希望相談。③父の他界による生活支援の必要性。  
対応策（だれがどのように）

①：授産施設の就労支援員と担当チーフとが相談し、担当チーフから安心するような声かけをしていただくと同時に、次チーフへの引継ぎ時に就労支援員にも連絡があり紹介していただき、Sさんの配慮点について担当チーフから引き継いでいただいた。本人もその場に同席していたため、Sさんから安心の声が聞かれた。

②：父の入院時に、その不安や職場での人間関係の悪化が重なり退職希望を店長と相談した。その時に店長から「しばらく休んで良いから落ち着いてから出勤しなさい。」「あなたが抜けると部署の皆さんも困ってしまう。あなたはこの店に必要ですから辞めないで下さい。」とSさんに休養と存在価値を伝えることにより、Sさんも安心し、休養をもらい父の看病にあっていた。さらに事業所内で人間関係についての改善が図られていた。

③：父の他界により、Sさんが単身生活になる状況になったが、就労支援員と叔母とSさんとで相談し、叔母がSさん宅（団地）で同居し、家事を行っていただけのこととなった。それによりSさんも安心して仕事に復帰し、安定した生活を送っている。

## (6) 企業の声（稲嶺店長からのコメント）

### ①雇用してどうだったのか率直な意見

私が西里店に着任したときには、Sさんはすでにベテランのように働いてくれていました。現在の作業は、他のパートの社員の方と同じ事をしてもらっており、障がいを感じることはないのので、特別視もしていませんし、仕事を任せても素直に聞き入れて動いてくれているので、私のほうが頼り切っている感じで助かっています。

本人も明るい性格ですし、業務外の社員・パートとの交流も積極的に参加してくれていますから、もちろん関係も良好です。少し短気な面は見えるそうですが、それは、「障がい者だから」ではなく、一人の人間の性格ですからね。

### ②支援体制の課題

現在のところは本人も楽しく仕事をしているようなので、特に感じていません。

身だしなみや体調についても安定していますから、何らかの支援が必要かどうかは分かりません。

### ③今後に向けて（今後の継続勤務にあたっての課題や配慮点など）

現在の状況が安定しており、Sさんは農産の作業だけではなく、お客様用のカートやかごを自ら気付いて片付けたりもしますから、この調子を保ってくれば問題はありません。これからも頼りにしています。

